

地方創生総合戦略 実績報告書

(平成28年度進捗状況評価)

上三川町

平成29年8月

まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成28年度実施状況について

1 はじめに

まち・ひと・しごと創生については、国と地方が一体となり、中長期的視点に立って取り組む必要があり、本町においても国の長期ビジョン及び総合戦略並びに県の人口ビジョン及び総合戦略を勘案しつつ、本町における人口の現状と将来展望を提示する「上三川町人口ビジョン」と「上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

「上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は人口減少克服・地方創生を目的とし、人と仕事の好循環によるまちづくりを目指し、4つの基本目標と9つの基本的方向のもとに、28の戦略的な施策(作戦)を定めました。

2 進捗状況の検証・評価方法について

上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況を客観的に検証するために、上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価委員会において、すべての取組の内容について評価を行いました。「評価委員会評価」は、平成31年度に目標を達成するため、平成28年度の実績がどのように進捗しているかを、下記の5段階で評価したものです。

「評価委員の意見・提言」は、評価委員会においていただいた主な内容について掲載しています。

5段階評価 (単年度評価)	A	目標以上に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間より早く目標値達成が見込める 事業内容が目標達成に非常に効果が認められる
	B	目標達成に向けて順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間内の目標値達成が見込める 事業内容が目標達成に効果が認められる
	C	やや遅れているが概ね順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間内の目標値達成に向けて対策が必要と判断される 目標達成のために、事業内容に工夫が必要
	D	遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい	<ul style="list-style-type: none"> 実績値から計画期間内の目標値達成が難しいと判断される 目標達成のために、事業内容の見直し・改善が必要
	E	ほとんど未達成	<ul style="list-style-type: none"> 未着手

3 平成28年度の実施状況について

達成度別の作戦数

平成28年度実績は、28作戦中4作戦で「目標以上に進んでいる」、17作戦で「順調に進んでいる」、7作戦で「概ね順調に進んでいる」と評価されました。今後、評価委員会で受けた意見・提言をもとに、平成31年度の全作戦目標達成に向けて事業を推進してまいります。

5段階評価別	作戦数	全体に占める割合(28作戦中)
A 目標以上に進んでいる	4	14.3%
B 目標達成に向けて順調に進んでいる	17	60.7%
C やや遅れているが概ね順調に進んでいる	7	25.0%
D 遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい	0	0.0%
E ほとんど未達成	0	0.0%

上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業毎の担当課一覧

上三川町総合戦略

基本目標・成果目標	基本的方向	No.	作戦	KPI	担当課	評価委員会 評価			
基本目標1 若い世代の就労や 雇用の創出	農・商・工業の活性化の 推進	1	地元農業活性化プロジェクト	新規就農者数(年間)	産業振興課	C			
				JAうつのみや上三川集出荷所の 青果物販売数量	産業振興課				
				2	町の名物をつくろうプロジェクト	新商品開発数	産業振興課	B	
				3	地元企業交流プロジェクト	イベント開催数	産業振興課	C	
				4	商業経営の近代化	制度融資利用件数	産業振興課	B	
	雇用創出の推進		6	起業化等の支援	創業資金融資制度利用件数	産業振興課	B		
7					空き家対策事業	空き家の利活用件数	建築課	C	
基本目標2 子育て世代や若者 の定住の促進	定住支援の推進			町営住宅の改修率	建築課	B			
				9	定住のための住宅取得支援	新築住宅件数	建築課	C	
				10	上三川町住んでよいとこPR	全国移住ナビページのアクセス数	企画課	B	
	町の魅力アップの推進		11	上三川町来てよいとこPR	サンフラワー祭り来場者数	産業振興課	B		
					夕顔サマーフェスティバル参加団 体数	産業振興課			
			12	水環境のPR	上水道の整備状況についての満足度	上下水道課	B		
下水道の整備状況についての満足度	上下水道課								
基本目標3 若い世代の結婚・出 産・子育ての支援及 び学校教育の充実	出会いから結婚・出産・ 子育て支援の推進			婚活イベント開催数	企画課	A			
				14	妊娠・出産応援プログラム	出生児数	健康課	B	
				15	多子世帯応援プログラム	第3子以降出生児数	福祉課	B	
				16	産後ママ応援プログラム	応援プログラム利用者数	健康課	C	
				17	保育サービスの充実	待機児童数	福祉課	B	
						子育て支援センター利用者数	福祉課		
	学校教育の充実		19	特色ある教育活動の推進	タブレット型パソコン台数	教育総務課	B		
					町内学校図書館利用冊数	教育総務課			
基本目標4 誰もが健康で暮らし やすい環境づくり	安心安全を地域で守る 体制の充実			消防団員数	総務課	A			
				21	自主防災組織の推進	自主防災組織数	総務課	B	
				22	安心・安全！子どもを守るかみた んプロジェクト	交通安全対策の状況に関する町 民の満足度	総務課	B	
	いきいき生活の推進				安否確認センサーや緊急通報装 置の設置者数	保険課	C		
					24	生きがいづくり推進事業	生きがいサロンの参加延べ人数	保険課	B
					25	健康づくりの意識づけ支援事業	健康マイレージ参加者数	健康課	B
					26	運動のきっかけづくり支援事業	週1回以上の運動をしている町民 の割合	生涯学習課	B
	障がい者支援の充実				就労者の賃金(時給換算)	福祉課	A		
28					音声広報による情報提供	音声広報CDの利用者数	福祉課	C	

基本目標の平成28年度の状況について

■ 基本目標1 若い世代の就労や雇用の創出

成果目標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H28)
製造品出荷額等 基準値：(H24栃木県工業統計調査)	505,327 百万円	550,000 百万円	625,364 (H26)百万円
事業所従業者数 (H24 経済センサス)	16,174 人	19,400 人	17,400 (H26)人

■ 基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進

成果目標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H28)
社会増減数 (住民基本台帳)	-140 人	-100 人	1 人
町外からの滞在人口(休日) (地域経済分析システム From-to分析)	37,000 人	45,000 人	— 人
町外からの滞在人口(休日) (地域経済分析システム From-to分析)	1.10 倍	1.30 倍	1.07 倍

※町外からの滞在人口(休日)については根拠とする地域経済分析システム(RESAS)の仕様変更に伴い、滞在人口率(毎年度7月14時)で記載

※社会増減数は年度の数値(転入・転出・職権消除等)

■ 基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実

成果目標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H28)
婚姻届出数	142 件	160 件	127 件
合計特殊出生率	1.42	1.45	1.42 (H27)

■ 基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり

成果目標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H28)
まちの安心・安全に関する満足度 まちづくりアンケートにおける「消防・防災体制」、「治水対策」、 「交通安全対策」、「防犯体制」の各満足度の加重平均値	0.70	1.00 以上	—
障がい者福祉に対する町民満足度 まちづくりアンケートにおける加重平均値	0.64	1.00 以上	—

※実績値算出には総合計画策定時に実施している「まちづくりアンケート」(5年に一度)が必要となるため実績値未算出(途中経過を把握するため、簡易アンケートの実施を検討)

総合戦略評価シート

No. 1

所管課 産業振興課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出		
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進		
	作戦	地元農業活性化プロジェクト		
	K P I (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
新規就農者数		6 人	7 人	
J A うつのみや上三川集出荷所の青果物販売数量		4,864 t	4,900 t	
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年就農給付金：対象者1人 ・ 園芸産地振興対策事業：2件（パイプハウス7棟1837.8㎡） 		
	事業費	事業名	予算現額（円）	決算額（円）
		青年就農給付金	1,500,000	1,500,000
		園芸産地振興対策事業	1,200,000	1,200,000
C (評価)	K P I の状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		新規就農者数	2 人	D：遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい
		J A うつのみや上三川集出荷所の青果物販売数量	4,757 t	D：遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい
	分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の農業情勢は、国内外との産地間競争が激化する中で、米を始めとする農畜産物の価格が低迷し、一方では農業用資機材価格が上昇しているなど、農業経営が厳しい状況にあるため、就農する青年等が少ない状況にある。 ・ 青果物の販売数量については、一部の生産者においては規模拡大を進めているが、一方では生産者の高齢化により離農する農業者がいることから、販売数量が低下している状況にある。 		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業を魅力ある職業として認識し、就農に繋げるためには、稼げる農業を実現する必要がある、効率的かつ低コスト生産を可能とする農業経営をなお一層推進する必要がある。 		
二次評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の事業での予算であれば、予算額がそのように見えるほうが良い。 ・ 農協に任せるのではなく、町の戦略なので町として主体的に言っても良い。 ・ 稼げる農業、赤字にならない収支のモデルケースを作って、イメージのすり合わせなども必要だと思う。 ・ 離農者（農業を辞める人）を減らす工夫が必要。離農者を減らす対応が出来ないのに新規就農者を増やせるのか？という考え方もある。 		
	C			

総合戦略評価シート

No. 2

所管課 産業振興課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出		
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進		
	作戦	町の名物をつくろうプロジェクト		
	K P I (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		新商品開発数	— 種類	3 種類
地方創生交付金 対象事業 K P I	かみのかわブランド新商品 開発数 (認定数)	1 (H28) 種類	4 (H30) 種類	
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・上三川町特産物販路拡大事業:横浜市たまプラーザ駅前テラスマルシェにおいて、本町農産物のPR活動を実施 ・上三川町かみのかわブランド認定審査会において認定基準等の決定 		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		上三川町特産物販路 拡大事業	180,000	162,703
地方創生交付金 対象事業費	かみのかわブランド認定事業	45,000	36,000	
C (評価)	K P I の状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		新商品開発数	1 種類	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	かみのかわブランド新商品 開発数 (認定数)	0 種類	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している	
	分析	他との差別化が図られている商品を認定対象とするなど、「かみのかわブランド」の価値を高いものとする必要がある。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・かみのかわブランド認定制度の早急な実施 			
二次評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「かみのかわブランド」として推薦したい商品があるので、銀行としても協力させてもらいたい。 ・差別化は、他市町村にはない品種や良さを大いにPRしなければ難しい。 ・新商品開発のためには、予備軍を多くつくらないと達成は難しいと思う。 ・町民みんなが名産品を知ってPR出来る様にならないといけないので、仕掛けが必要。 ・特産品のブランド化だけでなく生産者によって品質が違うので、生産者に対しての認定制度というのも一考ではないか。 ・同じ農家でも時期によって味が違う。ブランド化の際には時期も明記したほうが良い。 		
	B			

総合戦略評価シート

No.

3

所管課

産業振興課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出		
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進		
	作戦	地元企業交流プロジェクト		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		イベント開催数	— 回	5 回
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 『上三川町企業間交流会運営費補助金交付要綱』の制定 「上三川町企業間交流会運営費補助金」の創設 		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		企業間交流会事業	0	0
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		イベント開催数	0 回	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	今年度は事業実施に向けた要綱制定及び事業費準備を進めた。		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 高い効果が得られるよう類似事業を実施している近隣市町等からの情報収集の実施 		
二次評価	評価委員会評価			
	C	<ul style="list-style-type: none"> 外部から進出している企業にも参加してもらえる交流会にしてほしい。 状況把握を確実にし、効果をはかれるようなKPIを考えてほしい。 狙いが人材確保だけでなく、企業の商売マッチングなどをやると思うが、狙いが見えるようにそれに合う企業交流や、地元だけでなく目的のためには県内、県外も含めて考える必要がある。 		

総合戦略評価シート

No.

4

所管課

産業振興課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出		
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進		
	作戦	商業経営の近代化		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		制度融資利用件数	18 件	23 件
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・町内金融機関と連携した制度融資利用の推進 ・融資制度内容の改善検討 ・空き店舗調査の実施 		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		中小企業事業資金融資 信用保証料補助	2,500,000	778,183
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		制度融資利用件数	22 件	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	順調に利用件数は増えているが、抜本的な制度内容の改善を実施しなければ融資額自体の増加は難しいと考える。		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・抜本的な制度内容の改善検討 ・空き店舗の利活用の可能性の把握 		
二次評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地元銀行として、制度融資を積極的に活用していきます。 ・上三川町の事務所・店舗へのニーズは高いので、まずは空き店舗の調査をしてほしい。 ・銀行としても情報提供をしていきます。 ・近代化のアドバイザーシステム(商工会)でも良いが、親切に対応してほしい。 ・融資額だけでなく別なKPIもサブとして設け、戦略が上手くいっているか見えるようにしたほうが良い。 ・関係部門との連携を図って取り組んでほしい。 		
	B			

総合戦略評価シート

No. 5

所管課 産業振興課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出		
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進		
	作戦	商店街再生に向けた検討		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		町内の商店 (大型店以外) で買い物をしている町民の割合	40.0 %	48.0 %
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム付き商品券の発行 ・新聞、かみたんメール等を活用した飲食店や商店街イベントのPR 		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		プレミアム商品券事業	2,700,000	2,688,326
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		町内の商店 (大型店以外) で買い物をしている町民の割合	※ 町内アンケート等が必要	—
	プレミアム商品券の換金率	99.57 %	B: 目標達成に向けて順調に進捗している	
	分析	プレミアム商品券の換金率はH26の98.99%から0.58%増加し99.57%となっているため、町内商店での買い物への誘導に効果が出ている。		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム商品券及び商店街による自主的なイベントによる効果を最大限に活かせるような周知方法の検討 		
二次評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム商品券事業だけでは、KPIの達成は難しい。270万円では効果が小さいのではないかと。 ・町としては、魅力ある商店作りのお手伝いを商工会と協力して行なうことが必要ではないかと。 ・町の商店での買い物率を明確につかみ、分析して、小売店を指導サポートすべき。 ・戦略的に競わせる所、大型店にないサポートなどの小売店のメリットを作り出しPRするようにしないといけない。 ・プレミアム商品券のお得感を与えるPRをしていただきたい。 		
	B			

総合戦略評価シート

No.

6

所管課

産業振興課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出		
	基本的方向	雇用創出の推進		
	作戦	起業化等の支援		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		創業資金融資制度 利用件数	1 件	3 件
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・創業支援事業計画の申請及び認定 ・上三川町創業支援ネットワーク連絡会による連携 		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		創業支援事業	0	0
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		創業資金融資制度 利用件数	2 件	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	順調に利用件数は増えているが、抜本的な制度内容の改善を実施しなければ融資額自体の増加は難しいと考える。		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・抜本的な制度内容の改善検討 ・上三川町創業支援ネットワーク連絡会の連携強化 		
二次評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・創業後2～3年経って軌道に乗ってくると、業容拡大に向けて資金が必要になってくる。そういう資金にも対応できる制度に変更してみたらどうか。 ・他市町の起業化施策の情報収集が必要。 ・他市町の起業化したがやめた方の理由を調査分析することが大切。(予防策が取れる) ・制度のPRを多くしたほうが良い。 		
	B			

総合戦略評価シート

No.

7

所管課

建築課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進		
	基本的方向	定住支援の推進		
	作戦	空き家対策事業		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		空き家の 利活用件数	— 件	10 件
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・町空き家条例素案作成 ・パブリックコメント実施 		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		—	—	—
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		空き家の 利活用件数	0 件	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	空き家条例の素案作成に時間がかかり3月議会提出予定が6月議会提出となった		
	課題	空き家の有効活用（バンクなど）の推進		
二次評価	評価委員会評価			
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町村情報入手と良い策の活用をお願いする。 ・全母数を捉え%に出来るよう、サブKPIなどを考えて進めると効果が見えるのではないか。 ・空き家の実態調査と対策を推進してほしい。 ・日本全体の問題。先進地の情報収集や空き家になる原因の把握をして、空き家になりそうな物件を予想し、先回りをして戦略を立てられるようにしてほしい。 		

総合戦略評価シート

No.

8

所管課

建築課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進		
	基本的方向	定住支援の推進		
	作戦	住宅・宅地の供給推進		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		町営住宅の改修率	28.0 %	85.0 %
D (実行)	事業実績	見直し後の長寿命化計画に基づき次年度以降の実施計画、予算編成		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		—	—	—
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		町営住宅の改修率	38.4 %	B：目標達成に向けて順調に進捗している
	分析	現在、実績値はやや低くなっているが、長寿命化計画に基づき平成32年度までに改修が終了するよう順調にすすめられている。		
	課題	町営住宅全体が老朽化しており、計画にない大規模な改修が必要になることが考えられる		
二次評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者のために積極的な改修を期待している。 ・町営住宅の改修率も大切であるが、充足率の把握も願いたい。 ・長寿命化計画は分かるが、町営住宅の絶対数をどの程度まで拡大すべきかは論議してほしい。 		
	B			

総合戦略評価シート

No.

9

所管課

建築課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進		
	基本的方向	定住支援の推進		
	作戦	定住のための住宅取得支援		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		新築住宅件数	209 件	250 件
D (実行)	事業実績	他の実施自治体の実績等の調査・検討 上三川町にあった施策の検討		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		—	—	—
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		新築住宅件数	150 件	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	他自治体の調査を行ってきたが、各自治体の施策は様々であり、上三川町にあった施策を検討中 町内の分譲地等の開発が一段落し、新築件数は年々減ってきている		
	課題	定住化促進のための他の施策との調整		
二次評価	評価委員会評価			
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町村からの住民への支援は、地元住民の新築との不公平感があるのではないか。流出防止のためにも、地元住民の新築に対する支援も検討してみてもどうか。 ・分譲等の予定が見えていないと、目標達成は難しい。 ・全体としての土地利用も含め、全体住宅計画戦略の上での分譲会社の呼び込みを含め支援策を立てたほうが良い。 		

総合戦略評価シート

No. 10

所管課 企画課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進		
	基本的方向	町の魅力アップの推進		
	作戦	上三川町住んでよいところPR		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
地方創生交付金 対象事業KPI	全国移住ナビページのアクセス数	—	件/年	10,000 件/年
	東京圏からの転入者数	(H26・27平均) 200	人/年	400 人/年
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・しごと・すまい・くらし総合支援事業(5,119,200円、全額交付金対象) <ul style="list-style-type: none"> ①上三川町観光情報誌作成発信業務(るるぶ 5,000部) ②魅力発信映像ソフト制作業務(独立宣言動画) ・上三川町認知度等調査業務(594,000円、全額交付対象)【H28:9.8pt】 		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
	地方創生交付金 対象事業費	上三川町住んでよいところPR事業	5,124,000	5,119,200
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		全国移住ナビページのアクセス数	568 件/年	D:遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい
	東京圏からの転入者数	189 人/年	C:やや遅れているが、概ね順調に進捗している	
	分析	<ul style="list-style-type: none"> ・情報誌と映像ソフト制作業務完了時期が2月・3月のため、実績に反映がされにくい。動画再生回数が1万回を超え、それに伴いこれまでに公開されている上三川町関連の動画も再生回数が伸びている。 ・東京などでのPR用に情報誌を5,000部を作成したが、「るるぶ」の知名度もあり大変好評であったため、増刷を予定している。 		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・KPI目標値達成のため、作成したツールを町外へ広くPRする方法を検討する必要がある。 		
二次評価	評価委員会評価			
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIの達成はこのままでは難しそう。移住転入者へのアンケートをうまく回収し分析し、ポイントをつかんだPRにつなげてほしい。 		

総合戦略評価シート

No. 11

所管課 産業振興課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進				
	基本的方向	町の魅力アップの推進				
	作戦	上三川町来てよいところPR				
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)		目標値 (H31)	
		サンフラワー祭り 来場者数	17,000	人	20,000	人
		夕顔サマーフェス ティバル参加団体数	18	団体	21	団体
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーペーパーを活用した開催PR ・新聞記事を活用した開催PR ・無料のイベント情報配信サイトを活用した開催PR 				
	事業費	事業名	予算現額(円)		決算額(円)	
		かみのかわ景観スポット整備事業	6,411,000		6,410,300	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)		進捗状況 (A～Eで評価)	
		サンフラワー祭り 来場者数	17,500	人	B：目標達成に向けて順調に進捗している	
		夕顔サマーフェスティバル参加団体数	17	団体	C：やや遅れているが、概ね順調に進捗している	
	分析	「多くの広告媒体」「多くの回数」による周知は、集客に関しては効果が大きい。				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者の利便性向上のための駐車場の確保 ・来場者の利便性向上のための巡回バスの導入検討 				
二次評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本町で最も集客力のあるイベントである。利便性を高め、更に多くの集客ができるよう努めてほしい。 ・町内、町外の客数、年齢、来た理由など、PRと共にいかに現状把握できるかが大切であり、把握するようにしてほしい。 ・町の魅力などアピールする工夫をもっとやってほしい。 				
	B					

総合戦略評価シート

No. 12

所管課 上下水道課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進		
	基本的方向	町の魅力アップの推進		
	作戦	水環境のPR		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		上水道の整備状況についての満足度	3.47	4.00
		下水道の整備状況についての満足度	2.91	3.50
D (実行)	事業実績	昨年度末に加入促進のためペットボトルを作成。平成28年度は実績無し。		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		水道水ボトルドウォーター 作製業務	540,000	487,080
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A~Eで評価)
		上水道の接続率	87.70 H31目標値88.80 %	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
		下水道の接続率	84.20 H31目標値91.80 %	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	※KPIに関しては5年置きに実施するまちづくりアンケートの指標のため、満足度につながる別指標を使用。 上下水道接続率は、職員の個別訪問や農集排区域については、管理組合役員と職員による個別訪問などにより、接続率が増となった。今後は、個別訪問時に、ペットボトルを配布し安全でおいしい水を飲んでもらい接続率の向上を目指す。		
	課題	快適な生活環境を確保する為に、安全で衛生的な上下水道への接続について理解は得られる必要がある。しかし、老夫婦のみの家庭や、井戸ポンプ・浄化槽が使用できるため、工事費用等の面で接続が難しい。		
二次評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> 作成したペットボトルを積極的に活用してPRしてほしい。 KPIが実績値でアンマッチ、アンケートで満足度は図るべき。 おいしい水ということが客観的に分かるような資料や根拠があると良い。 		
	B			

総合戦略評価シート

No. 13

所管課 企画課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実			
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進			
	作戦	出会い応援プログラム			
	K P I (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)		目標値 (H31)
		婚活イベント開催数	1	回	3 回
	交付金対象事業K P I (県：わがまち未来創造事業)	社会増減数	-140	人	-100 人
婚姻届出数		142 (H25)	件	160 件	
合計特殊出生率		1.42 (H25)		1.45	
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・1市2町(下野市・上三川町・壬生町)連携婚活を3回実施 ・商工会青年部主催 出会いのレシピ 1回 			
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)	
	交付金対象事業費	新たなひとの流れを生み出す1市2町連携プロジェクト事業	1,620,000	1,617,990	
C (評価)	K P I の状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)	
		婚活イベント開催数	4 回	B：目標達成に向けて順調に進捗している	
		社会増減数	44 人	A：目標以上に進んでいる	
		婚姻届出数	127 件	C：やや遅れているが、概ね順調に進捗している	
	合計特殊出生率	1.42	C：やや遅れているが、概ね順調に進捗している		
	分析	<p>1市2町連携婚活事業では、3回合計で50人以上の東京圏に住む女性に参加してもらい、19組のカップルが誕生した。(カップリング率37.25%) 50名以上の女性が本町を含めた1市2町を回り、シティプロモーションを行うことは出来た。実施後のアンケートでは約半数の女性がもう一度訪れたいとの回答をしている。</p>			
課題	<p>カップル誕生後の追跡調査等は行なっていないため、実際に結婚につながっているかは判断できないため、効果確認のための手段を1市2町で検討する必要がある。</p>				
二次評価	評価委員会評価				
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の男女の婚活イベントも検討してみたらいいのではないかな。 ・カップリングの特徴や特色などの分析を要する。 ・カップリングのその後の追跡調査が必要。 			

総合戦略評価シート

No. 14

所管課 健康課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実		
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進		
	作戦	妊娠・出産応援プログラム		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		出生児数	248 人	248 人
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・不妊治療費助成事業(のべ47組、実38組、4,166,500円) ・妊産婦歯科健康診査(妊婦69人、産婦8人、452,375円) 		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		不妊治療費助成事業	4,200,000	4,166,500
	妊産婦歯科健康診査	528,750	452,375	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		出生児数	251 人	B: 目標達成に向けて順調に進捗している
	分析	<ul style="list-style-type: none"> ・不妊治療費の助成を行った件数は、延べ47組であり、助成を始めた平成19年以来、過去最高となった。また、治療を実施した者を年代別に見ると、20歳台が23.4%、30歳台が61.7%、40歳台が14.9%となっており、30歳台で治療を行う夫婦が多かった。 ・平成28年度中に妊産婦歯科健康診査の受診票を交付した人数は273名、受診した妊産婦は77名であった。受診者には、平成27年度中に受診票を交付した者も含まれているため、一概に評価はできないが、一昨年の受診率が16.3%（受診者59名／受診票交付者361名）であったことを踏まえると、全体的な受診率は向上していると思われる。 		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・不妊治療費の助成については、需要が増加傾向にある。また、最近では、国や県において不妊治療費の助成を拡大する動きもあるため、今後内容の見直しが必要になってくると思われる。 ・妊産婦歯科健診については、受診率向上のため、更なる周知が必要と思われる。 		
二次評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・迷っている方へのアプローチ方策も考えてほしい。 ・自然増減が±0を目指すのではなく、プラスになるような目標値を設定すべき。 ・健康で丈夫なお子さんを産んでもらうことが大切。効果や支援などをもっとPRしてほしい。 ・国や県の施策をうまく利用し、制度を活用していただきたい。 ・治療費助成だけでなく、年齢と共に不妊になり易さや要因などの事前指導も重要である。 		
	B			

総合戦略評価シート

No. 15

所管課 福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実		
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進		
	作戦	多子世帯応援プログラム		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		第3子以降出生児数	39 人	39 人
D (実行)	事業実績	<p>●第3子以降出産祝金事業 第3子以降の子の出産に対し、赤ちゃん誕生祝金条例に基づき、祝金を支給。 平成28年度の実績は、33名×200,000円=6,600,000円</p>		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		第3子以降出産祝金事業	7,600,000	6,600,000
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28) (暦年)	進捗状況 (A～Eで評価)
		第3子以降出生児数	38 人	B: 目標達成に向けて順調に進捗している
	分析	出生児数全体は年々減少傾向にあるものの、第3子以降の占める割合は一定数を保っている。		
	課題	支給の目的が子育て世帯の経済的負担軽減であるが、祝金受給のためだけの転入が増加することも懸念される。		
二次評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・33と38の差を無くす表示にしてほしい。 ・第3子以降の出産前1年間の転入条件は無くしたほうがよい。その先出て行くまでの期間のしびりを設けるべき。一時金でなく数年分割でもよいのでは。 ・一時金は日本一にするなど、話題になりPR出来る工夫が必要。 		
	B			

総合戦略評価シート

No. 16

所管課 健康課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実		
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進		
	作戦	産後ママ応援プログラム		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		応援プログラム 利用者数	— 人	20 人
D (実行)	事業実績	・ニーズ調査アンケートの検討		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		—	—	—
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		応援プログラム 利用者数	0 人	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	・アンケート内容の検討を行うに留まっている。		
	課題	・子育て世代包括支援センターの設置に併せ、同センターの事業として実施を予定しているプログラムである。切れ目ない支援を実現するため、同センターの体制の整理時に当プログラムが果たす役割を決め、その上で内容を決定したいと考えていることから、実施には時間を要する。		
二次評価	評価委員会評価	・他市町村の実例で反省・成功例を学び、活動に活かしてほしい。 ・妊娠から小学生くらいまで、時系列なプログラムを全体の効果や課題などが見えるようにして行なったほうが良い。もっと全体像をPRして、他市町村の手本になるくらいにしたほうが良い。 ・アンケートを早急に取り組んで対応を検討していただきたい。		
	C			

総合戦略評価シート

No. 17

所管課 福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実		
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進		
	作戦	保育サービスの充実		
	K P I (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	
待機児童数		0	人	0 人
子育て支援センター利用者数		8,918	人	10,000 人
D (実行)	事業実績	特定教育・保育施設に対し、施設型給付費及び地域型保育給付を支給し、運営費の一部を助成する。延長保育や一時預かりといった特別保育に対して助成をする。保育施設整備を行う事業者に対して補助金を交付し、保育の受け皿を計画的に確保する。(あけぼし保育園新築・大山保育所整備事業)		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		保育所費	614,500,000	598,388,991
		私立保育園助成事業	172,737,000	166,646,600
大山保育所整備事業	22,674,000	10,420,763		
C (評価)	K P I の状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		待機児童数	1 人	C : やや遅れているが、概ね順調に進捗している
		子育て支援センター利用者数	10,175 人	A : 目標以上に進んでいる
分析	児童数自体は年々減少しているが、社会情勢の変化による共働き世帯増加の影響から、保育希望数は増加している。特に0～2歳については著しく増加しているため、保育ニーズの把握に努め、計画的に受け皿確保を推進する必要がある。			
課題	児童数自体は減少しているが、保育ニーズについては、社会情勢の動向によるところが大きいいため、必要量を見込むことが困難である。			
二次評価	評価委員会評価			
	B	<ul style="list-style-type: none"> 待機児童数1人いるが、目標に向けて順調に進んでいると考えられる。 裏の保育ニーズを把握する必要がある。入所が難しいからと、最初からあきらめて申し込みをしない方もいるのではないか。 		

総合戦略評価シート

No. 18

所管課 福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実		
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進		
	作戦	障がい児の療育支援		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		1人あたり療育回数	1 回/月	4 回/月
D (実行)	事業実績	①障がい児通所支援事業 児童デイサービス 延べ利用人数:294人 延べ利用日数:2,045日 ②障がい児通所施設の備品(トランポリン等の療育に必要な遊具)購入費のための助成(H27)		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		障がい児通所支援事業	29,005,000	29,004,726 (うち児童デイ:17,498,936)
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A~Eで評価)
		1人あたり療育回数	6.9 回/月	A:目標以上に進んでいる
	分析	・県の指定をとる障がい児通所支援事業者が増加したこと、またその事業者と契約し、利用する障がい児が増えたため。		
	課題	・平成28年度実績は目標を達成しており、今後も発達に係る早い段階で療育の機会をより多くもてることは良いことであるが、その障がい児について一番効果が高い頻度を見極めていくことが必要。		
二次評価	評価委員会評価			
	A	・H26の4事業所からH28の7事業所への増加は素晴らしい。 ・7事業所の維持とサービス品質の確保・管理・コントロールをしてほしい。		

総合戦略評価シート

No. 19

所管課 教育総務課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実		
	基本的方向	学校教育の充実		
	作戦	特色ある教育活動の推進		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
タブレット型 パソコン台数		0 台	110 台	
町内学校図書館 利用冊数		79,000 冊	81,000 冊	
D (実行)	事業実績	①タブレット型端末整備事業は平成29年度から実施のため準備中 ②学校図書館の図書に児童生徒が活用する蔵書を増やす		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		タブレット型端末 整備事業	0	0
	小学校図書館司書配置事業 中学校図書館司書配置事業	9,991,000	9,991,000	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		タブレット型 パソコン台数	0 台	B: 目標達成に向けて順調に進 捗している
		町内学校図書館 利用冊数	80,974 冊	B: 目標達成に向けて順調に進 捗している
	分析	①タブレット型端末は予定どおり、平成29年度導入に向けた準備を進め ている。 ②学校図書館の利用は授業で使う資料の増加により利用が増えている。継 続的に現状と同様の利用が図れるように事業を進めていきたい。		
	課題	新しい図書と古い図書の入替を、授業の進捗状況や児童生徒の興味に合わ せ、どのように進めるか。		
二次評価	評価委員会評価	・KPIはほぼ達成しているが、中学校の利用冊数が更に増えることを期待して いる。 ・タブレット型で対話表現力が向上しているかをチェックして毎年改善できる仕 組みで効果を見てほしい。 ・タブレットの導入目的に向かって指導を徹底してほしい。		
	B			

総合戦略評価シート

No. 20

所管課 総務課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	安心安全を地域で守る体制の充実		
	作戦	がんばれ消防団事業		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		消防団員数	250 人	250 人
D (実行)	事業実績	○安全装備品の全団員支給(編み上げ靴×250足)		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		消防団員活動服等更新事業	2,295,000	2,248,236
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A~Eで評価)
		消防団員数	250 人	A: 目標以上に進んでいる
	分析	消防庁の基準に基づいた安全装備品の充実が図れた。		
	課題	条例定数250人は満たしているが、例年、新入団員の確保が困難となってきている。装備品の充実以外にも、消防団の魅力アップを図るような新たな施策の立案が急務である。平成29年度については、消防団サポート事業(応援の店・協力事業所表示制度)を開始した。		
二次評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・定員以上に団員志望者を確保することが課題である。 ・予備軍(2軍)的な組織も要検討願いたい。 ・団員個人・団員の勤務企業にもっとメリットがある策を考えてほしい。 ・層の厚い消防行政に努めてほしい。 ・消防団の活動の紹介などを町全体ですべき。 		
	A			

総合戦略評価シート

No. 21

所管課 総務課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	安心安全を地域で守る体制の充実		
	作戦	自主防災組織の推進		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		自主防災組織数	— 箇所	40 箇所
D (実行)	事業実績	○自主防災事業活動補助金 56,000円(6自治会) ○自主防災組織設立事業交付金 300,000円(6自治会)		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		災害対策費	1,750,000	356,000
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A~Eで評価)
		自主防災組織数	13 箇所	C: やや遅れているが、概ね順調に進捗している
	分析	平成29年3月末時点で13箇所、4月に1箇所設立され、現在14箇所となっている。 平成29年度は、推進計画に基づき20箇所の自治会に、説明会を行うこととしている。		
	課題	防災意識に地域間格差があり、組織設立に至るまでのプロセスが異なるため、予定通り進まない場合がある。		
二次評価	評価委員会評価	・身近な活動、写真や計画、結果など、また、上手くいっている組織の実例PRなどで、自主防災組織のメリットや活動がよりイメージのしやすいものでPRしてほしい。 ・各自治会長は約半分が1年目なので、自主防災組織の大切さについての勉強会を開催しても良いのではないかと。		
	B			

総合戦略評価シート

No. 22

所管課 総務課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	安心安全を地域で守る体制の充実		
	作戦	安心・安全！子どもを守るかみたんプロジェクト		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		交通安全対策の状況に関する町民の満足度	27.6 %	50.0 %
D (実行)	事業実績	○道路危険箇所等の改善(カーブミラー及び啓発看板の設置等(39箇所)) ○交通安全運動の実施(年4回他に街頭広報7回) ○交通安全関係団体の活性化(4団体) ○交通安全教室の開催(6回、高齢者メイン・H29からは、未就学児も含む) ○高齢者運転免許証自主返納事業(デマンド交通回数券(38名))		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		交通安全対策費	15,284,000	14,764,461
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		交通安全対策の状況に関する町民の満足度	— %	B: 目標達成に向けて順調に進捗している
	分析	交通安全対策については、数値化しづらいものも多いが、町民の要望に応じ、町で対応できないものについては、関係機関(警察及び道路管理者等)に引き継ぐなど、適時処理するなどの対応を行っている。		
	課題	・高齢化の進展に伴う高齢者の交通事故件数の増加 ・子どもをはじめとする歩行者の安全性の確保 ・危険箇所の再確認など交通事故発生要因の分析による実践的な交通安全対策が必要 ・交通事故発生抑制には安全意識を浸透させる継続的な啓発が必要		
二次評価	評価委員会評価			
	B	・小学生の登下校時のボランティア(スクールガード)との連携も大切である。 ・別のKPIとして、交通事故の分析と対策、結果、評価が大切である。 ・今後とも事故発生要因を分析し、安全対策を図ってほしい。		

総合戦略評価シート

No. 23

所管課 保険課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	いきいき生活の推進		
	作戦	こんにちは、じいちゃんばあちゃん訪問事業		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		安否確認センサーや緊急通報装置の設置者数	70 人	85 人
D (実行)	事業実績	安否確認・緊急通報システム 新規人数 平成27年度 7人 平成28年度 11人		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		家庭内の事故等への対応の体制整備事業	2,592,000	1,687,392
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		安否確認センサーや緊急通報装置の設置者数	70 人	D:遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい
	分析	新規設置者は、2年間で18人あったが、死亡・施設入所等による撤去者も同数出ていたため実績が伸びなかった。		
	課題	独居でも住み慣れた地域で出来るだけ長く生活できるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進する必要がある。		
二次評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・PR用の資料があれば、銀行も高齢者宅への訪問をしているので協力させていただきます。 ・もっとPRすべき。 ・自治会とも、もっと協力して進めてほしい。 ・KPIは単なる台数ではなく、条件に合う人の総数－断られた方の数(費用やプライバシーの理由で)を母数とし、設置数/母数の充足率で考えるべき。 		
	C			

総合戦略評価シート

No. 24

所管課 保険課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	いきいき生活の推進		
	作戦	生きがいづくり推進事業		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		生きがいサロンの参加延べ人数	4,207 人	4,500 人
D (実行)	事業実績	高齢者支援協議体(年間12回開催) かみしるべの発行(3,000部×3回)発行(自治会班回覧・関係機関等配布) 創年倶楽部運営ボランティア養成講座開催		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		地域包括生活支援体制整備事業	2,297,000	2,225,600
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A~Eで評価)
		生きがいサロンの参加延べ人数	5,513 人	A: 目標以上に進んでいる
	分析	自治会単位のミニサロンの開始により、身近な地域での活動が増え、参加者の増加に繋がった。		
	課題	ミニサロンが立ち上がった自治会はまだ少数で有り、今後全自治会に普及を図るためには、運営ボランティアの育成が課題。		
二次評価	評価委員会評価			
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「生きがい」は誰かの役に立つことだと思う。単なる居場所づくりではなく、「生きがいづくり」とは何か、真の「生きがい」をもっと論議してほしい。 ・サロンの延べ人数だけではなく、利用者の満足度などを指標にする方が良いのではないか。 		

総合戦略評価シート

No. 25

所管課 健康課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	いきいき生活の推進		
	作戦	健康づくりの意識づけ支援事業		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		健康マイレージ 参加者数	— 人	900 人
D (実行)	事業実績	健康マイレージ事業(1,468,000円) ①取り組み内容の見直し(健康づくりの取り組みを5項目から3項目へ) ②「チャレンジシート」のページ数を減らし明瞭化 ③参加記念品の見直し(お買い物券に加え、デマンド交通利用券等3点の内、1点を贈呈) ④お楽しみ特典として、参加者に抽選で町の特典品を交付 ⑤町の保健事業・広報・自治会や団体総会等での啓発		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		健康マイレージ事業	1,468,000	944,206
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		健康マイレージ 参加者数	449 人	B：目標達成に向けて順調に進捗している
	分析	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度の平成27年度の参加者と比較すると、約1.5倍に増加している。 ・参加者は60・70代が多く、若年層の参加が少ない。対策として若年者健診受診者への個別通知の送付や、小中学校保護者への啓発ちらしの配布などを実施したが、大きな効果は現れなかった。 		
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・若年者や健康に対する意識が低い者に対する効果的なアプローチ方法を検討する必要がある。 ・自治会や団体など複数の方で、取り組んでいただけるような周知方法の検討 		
二次評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・医療費の削減等、効果の検証が将来的には必要だと思う。 ・草むしり、ゴミ拾いなどもポイントに加えるなど、他のイベントと組み合わせると良い。 ・1回だけではなく複数回交換できるシステムを考えてはどうか。 ・自治会対抗マイレージなども良いのではないか。 		
	B			

総合戦略評価シート

No. 26

所管課 生涯学習課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	いきいき生活の推進		
	作戦	運動のきっかけづくり支援事業		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		週1回以上の運動をしている町民の割合	30.0 %	40.0 %
D (実行)	事業実績	<p>【町民スポーツレクリエーション祭事業】</p> <p>①運動(身体を動かすこと)のきっかけ作りとして、ニュースポーツ体験コーナーのリニューアルや、子連れ世代へのアピールとして謎解き型ウォークラリー『トレジャーハンティング』の導入。</p> <p>②直接運動機会へと結びつける流れを創出するため、ウォーキングの実質的運営を総合型地域スポーツクラブの『かみスポクラブ』へ委任。</p> <p>③町内での競技人口が多い『サッカー』について、新種目『ミニサッカー』を新設。</p> <p>【体育施設等指定管理事業】</p> <p>①月例報告時の体制を充実させ、指定管理者と町の双方向意見交換の精度を向上させ、体育館利用の窓口となり得る自主事業の充実に繋げた。</p>		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		町民スポーツレクリエーション祭事業	3,286,000	3,011,321
	体育施設等指定管理事業	15,185,000	15,185,000	
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A~Eで評価)
		週1回以上の運動をしている町民の割合	※ 町内アンケート等が必要	—
		スポーツレクリエーション祭の参加者	3,050 人	B: 目標達成に向けて順調に進捗している
	体育施設の年間利用者	132,292 人	B: 目標達成に向けて順調に進捗している	
	分析	<p>・スポレクの参加者は約1,000人、体育施設の利用者は約20,000人とどちらも想定以上に増加した。</p> <p>・参加者や利用者向けのアンケートも前年以上の規模で実施しており、今後更なる人数増に結び付ける為の方策も検討しやすいつ感じている。</p>		
課題	<p>そもそも、スポーツに興味のない(知りたがらない)人に対して、どのようにPR・周知していくかが喫緊の課題。</p>			
二次評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIがH31でないと見えないのは不適。 ・延べ人数でなく、何らかの形で実人数を把握するほうが良い。 ・スポーツが億劫だと思っている人を上手く誘えるPRと支援を考えてほしい。 ・自治会対抗などを意識させることも必要ではないか。 ・若い人が参加できる施策に取り組んでいただきたい。 ・町民スポレク祭は、3地区に分けても良いのではないか。 		
	B			

総合戦略評価シート

No. 27

所管課 福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	障がい者支援の充実		
	作戦	障がい者の雇用支援事業		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		就労者の賃金 (時給換算)	130 円	最低賃金の3分の1 (245円)以上 円
D (実行)	事業実績	販路拡大を行った。平成27年度に比較して納品先が8箇所増加した。		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		障がい者支援事業	0	0
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		就労者の賃金 (時給換算)	264 円	A: 目標以上に進んでいる
	分析	・工賃がH26年度比で約2倍になっている。商品の開発(利益率の高いパン以外の商品開発含む)・見直し(生産量見直し)・販路拡大等により更なる工賃アップを図れる可能性が高い。		
	課題	・更なる工賃アップ		
二次評価	評価委員会評価			
	A	・積極的にPRして、更なる販路拡大による工賃の更なるアップを期待する。障がいのある就労者の生活向上のために応援していきたい。 ・パン工場の効率化への支援のアドバイスや工夫なども行っても良いのではないか。(障がい者の障がいのレベルにも左右されると思うが)		

総合戦略評価シート

No. 28

所管課 福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	障がい者支援の充実		
	作戦	音声広報による情報提供		
	KPI (重要業績評価)	項目	基準値 (H26)	目標値 (H31)
		音声広報CDの 利用者数	— 人	20 人
D (実行)	事業実績	「広報かみのかわ」をDAISYにより録音、CDを作り、視覚障がい者等に配布した。また、視覚障がい者のサークルに訪問し、CD再生用機械の申請方法について説明を行い、取得を促進し、対象者の拡大を図った。		
	事業費	事業名	予算現額(円)	決算額(円)
		視覚障がい者情報 伝達事業	0	0
C (評価)	KPIの状況	項目	実績値 (H28)	進捗状況 (A～Eで評価)
		音声広報CDの 利用者数	4 人	D：遅れが生じており、このままでは目標達成が難しい
	分析	・作られたCDがサークル内での配布にとどまっている状態。サークルに入っていない視覚障がいを持つ方に町情報を拡散するための手法を検討する必要がある。		
	課題	・読み取るための専用の機械、ソフトウェアが視覚障がいを持つ方々に普及していないケースも考えられる。		
二次評価	評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がい者の対象総数に対する充足率を目標にすべき。 ・伸び悩む課題・要因を分析把握して、そこに手を打つべき。 ・利用者の使いやすい器具への改善に努めてほしい。 		
	C			